

第6回 名女読書会 2023.3.8

生徒3名、講師1名の参加があり、5冊の本が紹介されました。読書会の最後に一番“いいな”と思った本に投票して1位の本を決めました。



たゆたえども沈まず
FICHTUNG NIC ARGENTUR
Maha Harada
原田マハ



「たゆたえども沈まず」

原田マハ

この本の表紙は誰の絵だと思いませんか？ゴッホの「星月夜」という絵ですが、この本は、ゴッホと弟の画商のテオ、そして日本から来た2人の美術商、複数の視点で描かれたとても興味深い物語です。もともとゴッホの絵が好きで興味を持った作品でしたが、ゴッホの死についても描かれていて、とても面白かったのでおすすめです！

913

H

「I Love Youの訳し方」

望月竜馬

色々な人のI Love Youが紹介されている本です。特に印象的だったのは、新堂冬樹の「忘れ雪」に登場する「すべてを捨てても愛を選ぶ」と解釈できる言葉です。自分には家族や友達など捨てられない大切なものがたくさんあるので、それを捨てて愛を選ぶということが衝撃的でした。



9

H

「夜に駆ける」

星野舞夜ほか

小説を音楽にするYOASOBIというグループの楽曲の元となった小説短編集です。夜に駆けるという音楽の原作の「タナトスの誘惑」が特に好きでした。音楽では描かれていない物語がわかるのでとてもおすすめです！



904

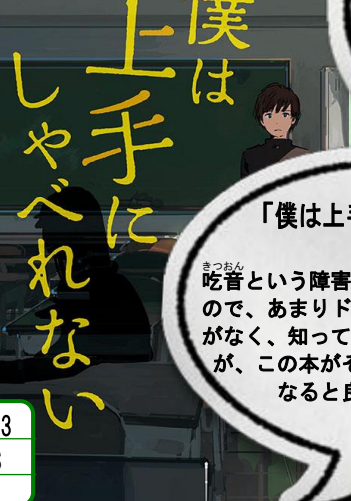
M

「15歳のテロリスト」

松村涼哉

この本は15歳のテロリストとなった少年を中心とした複数の視点から「少年犯罪」を考えることができる本です。例えば、恋人だった女性を犯人の少年に殺された男性の視点、当事者である少年の視点…。書名と表紙に惹かれてこの本を選びましたが、少年法について色々と考えさせられました。

椎野直弥
Naoya SHIINO



913

S

「僕は上手にしゃべれない」

椎野直弥

吃音という障害は目で見るできないので、あまりドラマなどでも描かれることがなく、知っている人が少ないと感じますが、この本がその症状を知るきっかけになると良いと思いました。



所蔵

なし